

平成26年度 鳥取県体力・運動能力調査の結果

県内全公立小学校・中学校、県立高等学校（全日制）の全児童生徒を対象に5月から7月に実施された調査の結果をお伝えします。

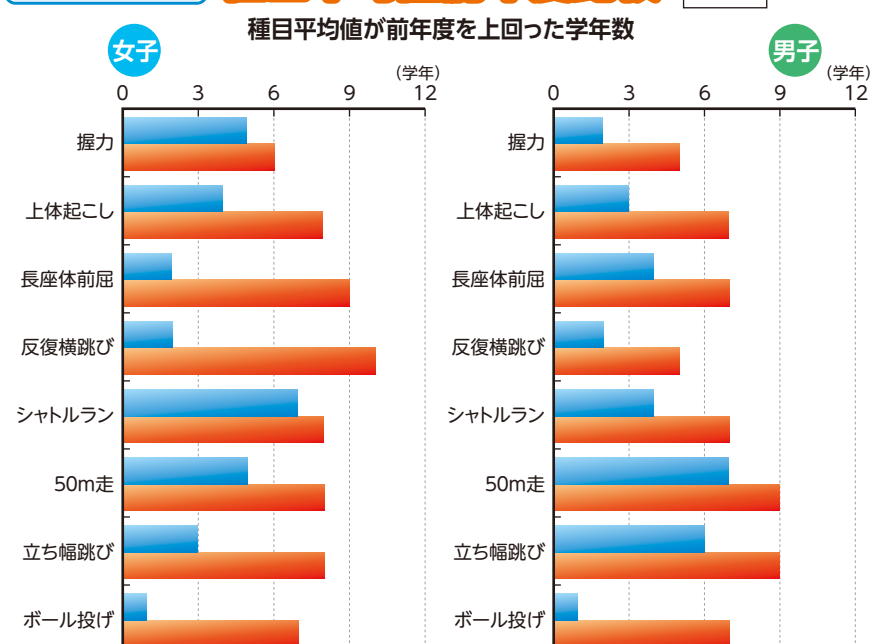
実技の調査① 体力合計点比較

	向上						低下							
	男子	小1	小2	小3	小4	小5	小6	男子	中1	中2	中3	高1	高2	高3
H25	30.47	37.56	43.76	49.14	54.69	59.91		33.51	41.88	49.86	52.82	56.95	59.47	
H26	30.48	37.72	43.75	49.53	54.35	60.35		33.77	42.85	49.27	53.22	57.11	59.23	

	向上						低下							
	女子	小1	小2	小3	小4	小5	小6	女子	中1	中2	中3	高1	高2	高3
H25	30.58	38.16	44.22	49.77	56.24	60.77		44.58	49.09	52.21	52.25	53.55	54.58	
H26	31.00	38.06	44.28	50.52	55.53	60.90		45.00	49.81	51.65	52.51	54.34	55.01	

H25とH26の体力合計点(8種目の合計点)平均値を比較すると、小1～高3までの男女それぞれ12学年(計24学年)のうち、男子8学年、女子9学年の計17学年で前年度を上回っています。

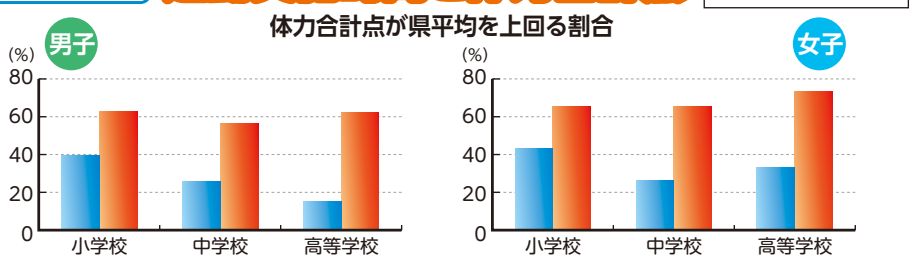
実技の調査② 種目平均値前年度比較



種目平均値が前年度を上回った学年数が、全ての種目で増加しています。特に、上体起こし(筋持久力)、長座体前屈(柔軟性)、反復横跳び(敏しょう性)、ボール投げ(投力)において向上した学年が増えています。

問合せ先 県教委体育保健課
電話 0857(26)7923 FAX 0857(26)7542

質問紙調査 運動実施時間と体力合計点



1日1時間以上の運動習慣があると回答した児童生徒は、体力合計点が県平均を上回っている割合が男女とも高く、体力が高い傾向にあります。

手話の普及に向けて

～手話普及コーディネーター・手話普及支援員が活動しています～

平成25年10月に鳥取県では全国初の手話言語条例が制定されました。これに伴い、県教育委員会では、子どもたちが手話を学ぶよりよい環境を整えるために、「手話普及コーディネーター」と「手話普及支援員」を配置しました。

手話普及コーディネーターとは

- 鳥取聾学校(鳥取市)と鳥取聾学校ひまわり分校(米子市)に1名ずつ配置
- 各学校からの手話学習の相談等に対応
- 「手話普及支援員」の各学校への派遣の調整等



鳥取湖陵高等学校での支援の様子

手話普及支援員とは

- 県民の方を対象に広く公募
- 現在約80名が登録(ろう者の方も多く登録してくださっています。)
- 学校からの要請に応じて手話学習の支援を行います。
- 現在も募集中です。

授業等で手話普及支援員の派遣を希望される学校は、お近くの「手話普及コーディネーター」にお問い合わせください。

問合せ先 県教委特別支援教育課 電話 0857(26)7575 FAX 0857(26)8101

手話コーディネーター

鳥取聾学校
河上 永子(かわかみ えいこ)
住所 鳥取市国府町宮下1261番地
電話 0857-23-2031 FAX 0857-27-8606

鳥取聾学校ひまわり分校
浦木 幹子(うらき みきこ)
住所 米子市上福原7丁目13番1号
電話 0859-23-2810 FAX 0859-23-2813

理科、数学の分野に協力して挑戦!!

～「科学の甲子園ジュニア」鳥取県大会～



コンパズ、定規を取扱して作図

今年度で第2回目となる「科学の甲子園ジュニア」鳥取県大会を平成26年8月19日(火)、鳥取環境大学で開催しました。参加した26チーム(14中学校)の生徒は、チームで協力して、課題に挑戦していました。競技の結果、総合1位の鳥取大学附属中学校Bチーム及び2位の鳥取市立高草中学校チームが、12月5日(金)から7日(日)の3日間、東京で行われる全国大会に出場することになりました。代表チームの健闘を祈っています。

問合せ先 県教委小中学校課
電話 0857(26)7512 FAX 0857(26)8170

みんなで防ごう! 感染症

これからの季節、インフルエンザや感染性胃腸炎などの感染症の流行が考えられます。「かからない・うつさない・広げない」を合言葉に、感染の拡大防止に努めましょう。

★普段から、栄養と睡眠を十分にとり、体の抵抗力を高めましょう。

★咳エチケットを心がけましょう。マスクをせずに咳やくしゃみをする、ウイルスが2～3m飛ぶと言われています。

- 咳、くしゃみが出る場合には、ティッシュ、ハンカチなどで鼻や口を押さえる。
- 使用後のティッシュは、すぐにフタ付きのごみ箱に捨てる。
- マスクを正しく着用する。

★手洗いを心がけましょう。感染予防の基本は「手洗い」です。

- 石けんやハンドソープを使って最低15秒以上、手のひらだけでなく、手の甲、指やつめの間、手首までしっかり洗いましょう。

★不織布(ふしよくふ)製マスクを着用しましょう。

- 外出時には、ウイルスが入りにくく、使い捨てができる不織布製マスクがおすすめです。

★感染の疑いがあれば、早めに医療機関を受診しましょう。



感染性胃腸炎(ノロウイルス等)への対応

【感染経路】経口感染といって、汚染された食品や飲料水から感染します。患者や症状のない保菌者から排出された菌が手指に付着し、口を介して感染します。(人から人へのいわゆる二次感染)

【症状】下痢(水様便から血便等様々)、嘔吐、腹痛、発熱

【予防方法】調理前や食事前、トイレの後は、流水とせっけんをよく手を洗う。トイレの便座・ドアノブ・水道の蛇口等手で触る部分はこまめに消毒する。

問合せ先 県教委体育保健課 電話 0857(26)7527 FAX 0857(26)7542

インフルエンザ等への対応

【感染経路】飛沫感染といって、咳やくしゃみで感染します。飛沫のウイルスが手指に付着し、口や鼻の粘膜から感染します。

【症状】発熱、呼吸器症状(咳、のどの痛み、鼻水等)

【予防方法】うがい、手洗いの徹底、部屋の換気はこまめにしましょう。流行期は人が集まる場所への参加を避け、マスク着用、咳エチケットを心がけましょう。

シリーズ 倉吉西高校

倉吉西高校

～10年後を見据えて～

心豊かで、社会貢献のできる人材育成をめざして



チャレンジグループ活動での介護施設訪問



チャレンジグループ活動成果発表

倉吉西高校は、今年度創立百周年を迎える単位制・普通科の学校です。『立志』(自ら志を立て、失敗や挫折を恐れず、志の実現に向けて積極果敢に物事に取り組む)を校訓として、高校生として望ましい生活習慣を身につけるとともに、10年後を見据えて、心豊かで社会貢献のできる人材育成をめざした取組を行っています。

倉吉西高校の最大の特徴は、体験を中心とした探究活動で、その一つが総合的な学習の時間として行っている「チャレンジグループ活動」です。この活動は、学問・職業に関する講演会の開催、2年次から自分の興味関心や進路希望に応じて6つの学問分野の中から希望する分野を選択し、関連施設等の訪問、大学教授等からの指導助言など体験を重視した取組で、視野を広げ社会問題の解決に向けた意識を高めていくことができます。

また、この活動の一環として、2年次には関西方面へ「フィールドワーク関西」という研修旅行を実施しています。この研修では、チャレンジグループ活動の6つの分野ごとに日本を代表する施設、企業等を訪問し、日本トップレベルの研究や取組を学ぶことができます。

さらに今年の全国高校総体で弓道部男女団体がアベック優勝を飾るなど、部活動も盛んな学校で、小さな学校ながらも「倉吉高ここにあり」といった心意気を見せてくれています。

問合せ先 県立倉吉西高校 電話 0858(28)1811 FAX 0858(28)1812



フィールドワーク関西研修での病院訪問



弓道部・全国総体男女団体がアベック優勝

シリーズ 鳥取県のエキスパート教員

鳥取県では、優れた教育実践を行っている教員を「エキスパート教員」として認定し、教職員全体の指導力向上を図っています。今回は米子市立美保中学校の宇城明教諭(認定分野:英語科)にお話を伺いました。



どの子にも存在感があり生き生きと活動する授業を目指して

英語の授業は、どこか体育に似ています。知識を習得するだけでなく、技能を習得する必要があるからです。英語が聞けたり話せたりする、読めたり書けたりするようになってはじめて「できた」と実感するのではないかと思います。そのために、英語の授業ではクラスの全員が意欲的に学習活動に参加できるように工夫しています。

英語の授業で大切にしていることが3つあります。

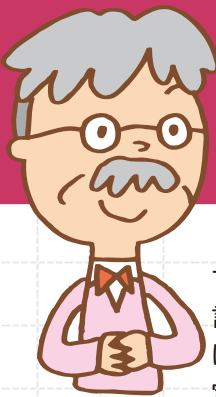
- 1つ目は協同学習の考え方を取り入れ、ペアやグループになって協力しながら、仲間と共に学びます。
 - 単語練習、会話練習、教科書の音読など、ほとんどの活動で仲間と協力しながら学んでいます。
 - 協同的問題解決能力を育成するために、一人一人が役割と責任を持つ学び合いの学習方法を取り入れています。
 - 「〇回できた人は?」といったように、一人が与えられた課題を何回できたか競うのではなく、全員がクリアすべき課題を設定し「全員がやりきる」よう努めています。
- 2つ目は特別支援教育の視点を取り入れ、すべての子どもにとってわかりやすい授業を目指しています。
 - 目標や学習の手順を明確に示し、見通しをもった授業を心がけています。

- 黒板を分割したり、色チョークの使い方を工夫したりしています。
 - 授業をいくつかのユニットに分け、集中力が持続する授業展開を行っています。
 - 最後に、より高い学びの質を目指して、かなり難しい課題も与えています。授業の中で「へえ〜!」と感じたり、本物の英語に触れたりする場面を設定することで、子どもたちは、学ぶ楽しさに気づいていきます。
 - 言葉の持つ深い意味に気づくような仕掛けを工夫しています。例えば、「現在完了形を使うと気持ちのこもった生き生きとした表現になるんだ。」など、受験参考書には載っていないようなことに気づかせたいと思っています。
 - 生の英語に触れる機会を作っています。
 - 環境問題活動家のセヴァン・スズキさん、ノーベル平和賞を受賞したマララ・ユサフガイさんやネルソン・マンデラ元南アフリカ共和国大統領などの名言を読み、世界の偉大な人物から学ぶ機会を作っています。
- 生徒たちに英語の授業をとらして「学ぶことの楽しさ」を味わってほしいと願いながら教材研究に励んでいる毎日です。

問合せ先 県教委小中学校課 電話 0857(26)7512 FAX 0857(26)8170

シリーズ プロ(文化財主事)が教える文化遺産のツボ!

第15回 本物の文化財に触れる! 人間国宝



「人間国宝」という言葉、多くの方が聞いたことがあると思います。これは実は通称で、正しくは国指定重要無形文化財保持者と言います。すぐれた「わざ」を高度に体現する人のことです。鳥取県には、昨年9月26日に国指定重要無形文化財「白磁」の保持者に認定された陶芸家 前田昭博さんがいらっしゃいます。

そんな鳥取県の誇るべき人間国宝 前田さんに子どもたちが直接お話をうかがい、一緒に制作体験をする授業「ふるさと未来創造塾～伝統工芸作家による子どものための制作体験～」を実施しました。これは、「ものづくりの楽しさ」を、次代を担う子どもたちに知ってもらいたいという前田さんの強い気持ちによって実現しました。白兎養護学校では高等部1、2年生が、鳥取砂丘こども国では鳥取市立国府東小の5、6年生と倉吉市立西郷小の6年生が参加しました。

授業では、まず前田さんから焼きものについてのお話がありました。陶器と磁器の違い、白磁の材料や制作法のほか、焼きものが土と水と空気と火という地球上の色々な要素を用いて作り、日本では1万年前から人々に用いられてきた大変魅力的なものであることを教わりました。そして、前田さんが電動ろくろで器を作られるのを見学し、その後一緒に器の制作体験をしました。

問合せ先 県教委文化財課 電話 0857(26)7934 FAX 0857(26)8128
鳥取県の文化財情報HP(とっとり文化財ナビ)
<http://db.pref.tottori.jp/bunkazainavi.nsf/index.htm>

制作体験(白兎養護学校)



ものづくりの楽しさを味わった子どもたちが、新しい人間国宝への一歩を踏み出したかもしれないお。

今回の授業に限らず、本物に触れることによる発見は、かけがえのない貴重な成長の機会です。皆さんの周りには様々な本物の文化財があります。ぜひ機会を見つけて触れていただき、新たな発見につなげて欲しいと思います。



【あおやん】 弥生土器をモチーフにしました。頭部は約1800年前の青谷平野の地形です。手には、水田を耕す道具である、木で出来た先の分かれた鎌を持っています。